

未来型図書館の 3つの役割と機能

1 多面的な機能が融合する 「学びの拠点」

- ・蔵書数は約35万冊を想定(令和21年度時点)
- ・施設全体に広がる博物館機能
- ・閲覧席400席以上
- ・“魅せる”公開収蔵庫の導入

2 市民が交流を通じて、 共に成長し「未来を育む場」

- ・市民交流・活動の拠点となるリビングラボ
- ・最大200人収容可能な多目的ホール
- ・多様な使い方が可能な「市民ギャラリー」
- ・市民参加型の選書制度の導入



開放的なエントランス



ティーンズスタジオ



庭に面したテラスとつながる市民ギャラリー



多様な使い方が可能な多目的ホール

3 ワンランク上の暮らしを 目指す「みんなの居場所」

- ・静けさと賑わいが共存
(読書や会話・活動、カフェ)
- ・サードプレイス(第3の居場所)
- ・福祉的役割(多世代交流拠点)



本、展示、活動、人が偶然出会う空間



ゆったりとした閲覧席



事業者選定
審査委員会委員長
難波 悠
(東洋大学大学院教授)

市民と未来型図書館を一緒に創り、運営するパートナーが決まりました。

リビングラボのこれまでの活動が広がり、新しい活動が生まれ、小松市民の文化、教育、社会活動の場として育っていくことを期待しています。



こまつ未来型図書館
パートナーズ(株)
代表取締役
小野寺 崇

この度本事業に携われることを、大変光栄に感じています。世代を超えて人と人がつながり、新しい学びや出会い、挑戦が生まれる「小松市の未来を育てる場所」となるよう、市民の皆さんと共に想いを重ね、心を込めて取り組んでまいります。

市立図書館からの お知らせ

市立図書館は未来型図書館の完成まで通常通り開館しています。お気に入りの一冊に出会えるいつもの空間で、皆様のご来館をお待ちしています。



※掲載の画像は現時点のイメージであり、今後の詳細設計などにより変更となる場合があります。

特集

市民と共に創る 未来型図書館

整備・運営事業者が「決定」



公開プレゼンテーションと、有識者で構成する審査委員会の結果から整備・運営事業を担う事業者グループとして「未来型図書館パートナーズ」を選定しました。提案内容から未来型図書館のコンセプトや役割などについて紹介します。

問い合わせ

未来型図書館づくり推進チーム ☎24・8042

提案内容 コンセプトと方針

「未来のひらく庭」

誰にでも開かれる「庭」を人々の記憶を映し出す象徴として、市民が関わり、多様な活動を積み重ねることで、使うほどに育ち続けていく「庭づくり」を目指します。



市役所前から(南西)



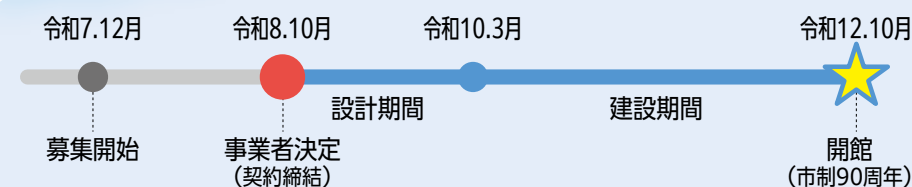
芦城公園正門から(南東)



高欄テラス

共創の実践と スケジュール

対話と活動の場「こまつリビングラボ」を通して、設計・建設、運営に至るまで、様々なフェーズで市民の皆さんと共に施設づくりを進めます。今後、設計などを進め、市制90周年の節目となる令和12(2030)年10月の開館を目指します。



「こまつリビングラボ」の開催予定は市ホームページで順次、お知らせします。



市民約350人が提案内容を傍聴しました。